

編集後記——本号発行は、編集の不手際のために予定を大幅に遅れてしまった。読者の皆様、早々に原稿をお寄せ下さった執筆者および関係者の方々に深くお詫びを申し上げます。

東アジアにおいては、歴史認識として一九四五年までの評価が問題となる。しかし、それ以降の歴史も当然に批判的に検証されなければならない。二・二八事件以降の台湾、南北の政府が樹立された四八年以降の朝鮮半島、四九年以降の中華人民共和国、独立を回復した五二年以降の日本も歴史なのである。特に、これらの諸国／地域は冷戦の被害者であると同時に、積極的に冷戦に関わり、時の政府が冷戦における加害責任も抱えている。

一九八九年に米ソ首脳が冷戦の終焉を宣言してから、今年は二五周年である。日本の加害責任が問われ始めたのが降伏から二五年が過ぎた一九七〇年前後だったことを考えずとも、一九四五年以降の自分たちを見つめるための十分な時間がたっている。

この間、例えば軍縮、人権、環境、紛争の平和的解決などの取り組みがなされていたが、東アジア諸国／地域はそうした努力に水をかけることが多かった。それを直視し、二一世紀を展望することも、東アジアの世界への責任と見えよう。それが、日本軍国主義を正当化などという動きによって、遙か手前で停滞している現状は二重三重に愚かしい。

(河辺一郎)

投稿原稿募集 新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論考を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る ②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度(400字詰原稿用紙換算) ③ワープロソフトで作成した原稿の打ち出し2部およびデジタルデータを提出。デジタルデータはeメールでの送信も可。

〈原稿送付先〉愛知大学現代中国学会 E-mail : china21@ml.aichi-u.ac.jp

投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の検討を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

中国21 編集委員会

〔編集長〕唐燕霞 河辺一郎 川村亜樹 羽根次郎 馬場毅 樋泉克夫

愛知大学現代中国学部 <http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html>

中国21 Vol.39

特集 ナショナリズムと 歴史認識

2014年1月31日発行

ISBN 978-4-497-21401-0 C3031

編集	愛知大学現代中国学会 名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777 Tel. 052-564-6128 Fax. 052-564-6228
発行人	安部 悟
発売元	株式会社 東方書店 東京都千代田区神田神保町1-3 Tel. 03-3294-1001
制作印刷	株式会社 あるむ 名古屋市中区千代田3-1-12 Tel. 052-332-0861